

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	A-169	15-072 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p style="text-align: center;">Longitudinal Effects of Violent Victimization during Adolescence on Adverse Outcomes in Adulthood: A Focus on Prosocial Attachments.</p> <p style="text-align: center;">思春期の虐待が青年期の健康的・社会的問題に与える縦断的影響：学校・家庭への愛着に注目して</p>		
執筆者		
Jillian J. Turanovic, Travis C. Pratt		
掲載誌		
J Pediatr 2015; 166(4):1062-9, doi: 10.1016/j.jpeds.2014.12.059.		
キーワード		PMID
虐待、向社会的愛着		25662833
要 旨		
目的：		
学校・家庭に対する愛着心が、思春期における虐待によりもたらされる成人後の健康的・社会的悪影響をどのように軽減させているかを評価する。		
方法：		
アメリカの一般中学生・高校生の国民健康データ（第一次 1994-1995 年、第三次 2001 年-2002 年）を用いて 13,555 名を対象として、男女別に層別解析を行った。成人後の有害イベントとしては、質問紙法によるアルコール関連問題を始めとして、犯罪、薬物使用、性感染症、暴力的虐待、自己評価の低下、抑うつ、自殺傾向、入院、肥満などとした。		
結果：		
多変量解析にて、思春期に受けた虐待は成年後の多くの健康的・社会的問題の重大な予測因子であった。アルコール関連問題に関しては、男性でのみ有意に関連していた ($B[SE] 0.08 [0.04], P < 0.05$)。学校・家庭への愛着を調整因子として補正すると、ほとんどの問題で虐待の影響が軽減され、アルコール問題に関しては学校への愛着で -36.5%、家庭への愛着で -29.5% という結果であった。		
結論：		
学校や家庭への強い愛着は、思春期に受けた虐待が及ぼす長期的健康的・社会的問題を軽減させることができる。このような観点を日常臨床に取り入れることにより、虐待被害者にとって行動的、社会的、精神的改善をもたらすことが期待される。		